

委員派遣実績報告書

令和元年11月19日

米子市議会議長様

総務政策委員会  
委員長 門脇 一男



委員派遣を行い、所管に属する事務に関する先進地事例について調査を行いましたので、下記のとおり報告します。

記

委員会名	総務政策委員会
期 日	令和元年11月6日から令和元年11月8日まで
視 察 先 及び視察 内 容	11月6日(水) 香川県丸亀市 調査項目：丸亀市川西地区の防災まちづくり活動について 11月7日(木) 兵庫県丹波篠山市 調査項目：公共交通政策について 11月8日(金) 兵庫県小野市 調査項目：市役所新庁舎整備に向けた取り組みについて
参加者名	【委員長】門脇一男 【副委員長】国頭 靖 【委員】石橋佳枝 今城雅子 岩崎康朗 岡田啓介 尾沢三夫 中田利幸 西川章三 【随行】議会事務局議事調査担当 主任 佐藤祐佳
経 費	544,700円
委 員 会 所 感	別紙のとおり

1 1月6日 香川県丸亀市

「丸亀市川西地区の防災まちづくり活動について」

## 1 視察の目的

丸亀市川西地区は地域で防災活動に率先して取り組まれ、それをまちづくりに結びつけられている先進地として知られる。その先進的な取り組みを調査・研究し、当市における地域活性化・まちづくりの参考とする。

## 2 視察（説明）要旨

平成13年に川西地区自主防災会の設立をされるまでの苦労や設立をされてから今日に至るまでの活動について、この川西地区で防災組織を一から立ち上げられた川西地区地域づくり推進協議会の岩崎正朔会長から経緯についてお聞きした。

### ●川西地区を取り巻く地理的な状況

ため池3つと河川が2つあり、はん濫や越水等の場合、地区の住民をどこに避難させるのか、要配慮者（現在130名）をどうやって声かけをして避難させるのか等から、まず、水の浸水しない民間を含めた高い建物等から探し、交渉をしながら課題を解決していく。

### ●防災マップの作成

土のうを備蓄しておく土のうステーションを地区に分散させて7カ所設け、救出用資材倉庫12カ所、協力体制の医療機関、公共民間施設も含めたため池決壊避難ビル3カ所、一時避難所5カ所、避難所5カ所、11カ所の備蓄ステーションを地図に落とし、普段からいざというときに備え住民の皆さんと意識を共有しておられる。

### ●地区の現状の把握

小学校在校生363名 幼稚園46名 保育所108名 病院（内科、外科、皮膚科、整形外科等） 歯科4つ 福祉施設7カ所 大型商業施設2つ

防災用無線 1基地局33端末 災害用トイレ640人槽3基

### ●防災活動始まりのきっかけ

自主自立の思いを掲げて平成7年3月に地域コミュニティーを立ち上げるも5～6年経過するも活性化の気配なし～活動の目玉について提言～環境と防災～環境は弱く、防災活動を街づくりのキーとする

### ●防災への取り組み

◎創設期（H14～H18）シフト1

- ・人材ウォッチング
- ・意識改革
- ・カタチ付け

◎躍動期（H19～H22）シフト2

- ・教育現場との連携
- ・運営資金の確保
- ・広域連携の始まり
- ・計画的資材の整備
- ・防災まちづくり大賞へチャレンジ
- ・要配慮者支援隊の発足

◎充実期（H23～H26）シフト3

- ・連携の拡大（企業・団体）
- ・東日本震災復興支援
- ・賛助会員制度の導入
- ・本格的備蓄のスタート
- ・ライフライン対策の強化

◎成長期（H27～現在）シフト4

- ・熊本地震への支援活動（8000食提供）
- ・災害用トイレの設置
- ・通学用ブロック塀の点検
- ・西日本豪雨の支援活動（岡山県真備町へ7月～8月延べ120人派遣）
- ・地域防災計画の策定
- ・避難生活向上施策
- ・福祉団体への防災ノウハウの提供

1年間の取り組み（年間スケジュール）

4月 1日：防災ネットワーク（無線）通話試験・・・毎月1日

15日：備蓄水入替作業（700ケース）

28日：地域総合防災訓練（300名）

5月 1日：防災ネットワーク（無線）通話試験

10日：地元小学校防災訓練

6月 1日：防災ネットワーク（無線）通話試験

15日：発電機類性能試験

7月 1日：防災ネットワーク（無線）通話試験

28日：要配慮者支援者研修（90～100名）

8月 1日：防災ネットワーク（無線）通話試験

9月 1日：防災ネットワーク（無線）通話試験

15日：発電機類性能試験

25日：地元小学校通学路マップ作り

10月1日：防災ネットワーク（無線）通話試験

15日：備蓄米入替作業（30キロ×16）

- 1 1月1日：防災ネットワーク（無線）通話試験  
26日：地元中学校防災訓練（1年生）
- 1 2月1日：防災ネットワーク（無線）通話試験  
15日：発電機類性能試験  
28日：備蓄関係たなおろし作業
- 1月 1日：防災ネットワーク（無線）通話試験  
10日：地元幼稚園防災訓練  
25日：夜間避難訓練（550名）
- 2月 1日：防災ネットワーク（無線）通話試験  
15日：土のう作成（地区内補充）  
25日：地元小学校防災訓練（5年生）
- 3月 1日：防災ネットワーク（無線）通話試験  
15日：発電機類性能試験  
31日：次年度事業計画の策定

#### ●継続のポイント

◎女性の参画～まちを代表する女性4、5名の登用

（すべての活動にバランス良く調和）

◎企業とのコラボレーション

- ・地域内企業とは運命共同体
- ・福祉関係者並びに幼保の支援に欠かせない力
- ・地域人にとっては後戻り出来ない目付役

◎各種「賞」へのチャレンジ

- ・地域が励みになる
- ・チャレンジすることによって取り組みの悪さ加減の判明
- ・全国各地の先進事例を学べる

◎まちづくりの機関車

- ・防災活動の波がまちなかをうねる波及効果
- ・自治会加入のV字回復
- ・活動効果は市から県へと拡大

◎リーダーは率先垂範と気配り

- ・将来計画の策定と行動力
- ・細部までの気配り・心くばり

・資金調達能力

最後に要は前を向いて歩く（実行する）ことです～と締め括られた。

### 3 主な質疑応答

Q:全国で防災の賞を多く取られているようだが。

A:敢えてもう参加すると言われるまで参加した。(説明が充実し質問時間が無く)

### 4 視察(説明)の要旨に対する委員の考え及び本市の事務事業に参考になる点

今から16年前にまちづくりの核として始められた防災組織の活動がその活動の多彩さとしっかりと地域に根ざし、人を巻き込み結びつきを強めた結果、始めた当初は自治会加入率が40%だったものが、現在は60%を超えたそうだ。

当市は自治会加入率は下がる一方だが、自主防災組織の結成率は6割7割と上がっている。川西地区の地域自主防災組織では全国一の取り組みを伺い、何年もかけて多くの人を巻き込んで作りあげられたこの川西地区の防災活動には、今後学ぶべきところは多くあると感じるし、大変勉強になった。是非当市の自主防災組織も川西地区方式を取り入れて組織強化と活力のある自主的なまちづくりに取り組んで欲しいと感じた。当市事務方、執行部にも私達から今後しっかりと提案して参りたい。

## 米子市議会総務政策委員会行政視察

1 1月7日 兵庫県丹波篠山市

「公共交通政策について」

### (1) 視察の目的

兵庫県丹波篠山市では平成14年にJRバスが全路線からの撤退をし、交通空白地帯が発生した。また、地域によっては著しい過疎化や高齢化が進展していたため、これらの交通不便地域の解消をすべく、いち早く公共交通の見直しに取り組みされた。本市においても今後は過疎化や高齢化の進展が予想され、丹波篠山市の先進的な取り組みを調査し、参考にすることとした。

### (2) 視察（説明）要旨

平成14年に、利用者の減少と道路運送法改正によりJRバスが全面撤退する。

↓

#### 【課題】

広大な市域(377.6km<sup>2</sup>)に点在する集落地・各種施設への対応

バス交通を中心とした公共交通ネットワーク形成への対応

市内にある公共交通不便地域への対応

高齢社会の進展への対応

生活交通路線の維持・確保への対応

↓

#### 【対策】

「篠山市公共交通対策協議会」を設立して対応、方策を検討し、国、県、市民、事業者の協力の下で効率的な方法により公共交通サービスを維持することとなる。

・路線バスの他事業者への移管

・廃止代替バスの設定

・スクールバスの活用

・乗合タクシーの運行

↓

平成17年より、路線バスの未運行地域を補完するために、コミュニティバスの運行を開始する。



平成21年、「地域公共交通総合連携計画」を策定し、コミュニティバスの路線の再編、スクールバスの一般混乗化の導入、観光地を繋ぐ交通体系の整備を図る。

- ・デマンド式運行の導入
- ・NPO法人（住民）等によるバス運行や乗合タクシーの運行
- ・待合スペースの整備や乗継ターミナルの設置
- ・乗り継ぎ割引運賃の導入



平成27年、公共交通網の再編に着手し、30年より再編運行を開始する。

- ・路線バス、コミュニティバス、タクシー、自家用有償旅客運送等、多様な手段での移動
- ・市役所及びJR篠山口駅まで乗り換えなし、あるいは乗り換え1回のみ
- ・医療機関への通院を中心に考えた運行

### (3) 主な質疑応答

事前に質問項目として丹波篠山市に送付した内容は、JRバス撤退の背景、撤退後の対策について、総合連携計画について、近年の課題・対策について等であったが、(2)の中で回答していただいた。その他、デマンド式運行については、「効率的かつ市民ニーズに適した交通体系の構築を図るため、郊外部の小需要、点在需要に対してはデマンド運行を取り入れた」とのこと。また、市が実施主体となっている自家用有償旅客運送事業については、「陸運局の登録を受け、交通空白地帯で各組織地域に委託している。車（6人乗り・8人乗り）は市から貸与する形で、概ね好評を得ている」とのことだった。

### (4) 視察（説明）要旨に対する考え及び本市への参考となる点

丹波篠山市は幾度となく路線バスが廃止される中で、その都度、市民サービスの観点を忘れることなく公共交通の見直しを図ってきた。車両の小型化、路線・時刻表の見直し、自家用有償運送の開始等々、見直しは多岐に渡っている。本市においても人口減少や高齢化が進展し、また一部では過疎化が見受けられる中、公共交通の再編は必須である。中でも自家用有償運送は検討すべき事業ではなかろうか。今回の視察で学んだ丹波篠山市の事例を参考にしながら、今一度市民目線になって本市の地域公共交通政策に活かしていきたい。

## 米子市議会総務政策委員会行政視察

1 1月8日 兵庫県小野市

「市役所新庁舎整備に向けた取り組みについて」

### (1) 視察の目的

小野市は、1町5村が合併して昭和29年に発足。市庁舎は、小野市が発足した昭和29年に建設され、昭和39年に現在の場所で新築され、平成12年に一部改修を行い現在に至っている。小野市は本庁舎敷地の借地問題を抱えるなか、令和2年の完成を目指し新庁舎の移転新築整備が行われていることから、本市と同様の借地を解消し、新庁舎整備に取り組まれている、小野市の先進的な取り組みを調査・研究し参考とすることとした。

### (2) 施策（説明）要旨

新庁舎建設に至った背景として現庁舎の課題として、「一部改修は行われているものの建設から50年以上経過し老朽化による雨漏り・ひび割れがあること。」「増改築による段差が多くバリアフリーに対応できていないこと。」「冷暖房や電気設備を含め、時代に対応できない配置や非効率な設備を改修する必要があったこと。」「平成25年以降、年々公共工事の労務単価が上昇し遅くなればなるほど建設費が高騰すること。」などがあり、新庁舎の検討が開始された。

さらには、平成7年の阪神淡路大震災後に耐震補強を行ったものの、平成28年の熊本地震において小野市と同時期・同形態で建設されていた宇土市役所庁舎が倒壊したことにより、災害に強い新庁舎建設の必要性が現実のものとなったことも起因している。

建設場所については、市内の各所からのアクセスが良いこと、一定のまとまった土地があること、市の施設が集積し、今後の発展が期待できる等の諸条件と、市の人口重心地を勘案して図書館北側に決定した。

新庁舎建設決定以降には、庁内に基本計画ワーキング部会で庁舎の位置・規模、機能・コンセプト等を検討。さらに、基本・実施設計検討部会で飲食機能の必要性、執務室レイアウトなどを検討。庁舎内の動線や分かりやすい標示を行うためにサイン計画検討部会によってサイン書体・多言語・ピクトグラム、施設名サインデザインや位置等の検討を行った。



議会からも「新庁舎建設特別委員会」を12回開催し、市民目線での利便性、機能性、配置等多方面から検討。託児スペースの設置等を提言した。

### (3) 主な質疑応答

事前の質問項目に対しては、(2)の説明の中で回答をいただいた。その他として、客観的な財政見通しに基づく予算措置については、「市の財政状況と目標値、今後建て替えが予定されている小中学校の関連予算なども勘案しながら、新庁舎建設予算を50～55億円と設定。基金の活用を含めて市の目標とする財政健全化指数を堅持しながら、新庁舎建設を建設する方針決定を行った。とのこと。

平成27年9月、市長が市庁舎の建て替えを発表。同年10月には「市庁舎建設準備室」を開設し、わずか2年半で基本構想、基本・実施計画の策定から設計・建設に至る、非常に短期間での整備の動きについては、「それまでの借地問題や、新たな公共施設建設の途上で行政担当者も調査・研究を行っており、設計や施工の事業者に的確で具体的指示ができるだけのノウハウを持っていたことが、事業を短期間で行うことができた要因である。」とのことだった。

### (4) 視察(説明)要旨に対する考え及び本市への参考となる点

本市も、本庁舎と第2庁舎の敷地の大部分は借地となっており、程度の差はあるものの各庁舎の老朽化が進んでいる。このような本市の市庁舎が抱える課題について、現時点での市の考え方を「米子市役所庁舎再編ビジョン」として策定した。

今後、「米子市役所庁舎再編ビジョン」の検証とともに、借地の解消と具体的な庁舎再編の取り組みを進めるうえで、小野市の新庁舎の整備のプロセスは貴重な先進事例であり、議会として様々に政策提案していくための示唆となると感じた。

総務政策委員会行政視察行程表

◎参加者 10名〔委員 9名・随行者 1名〕 門脇委員長、国頭副委員長、石橋委員、今城委員、岩崎委員、岡田委員、尾沢委員、中田委員、西川委員 随行者：佐藤

月 日	行 程	宿泊地
11/6 (水)	<p>9:22 米子駅 9:28 (伯耆大山駅) 11:38 岡山駅 12:12 岡山駅 12:49 坂出駅 13:07 丸亀駅 JR 特急やくも 10号・岡山行 JR 快速マリンライナー29号 JR 予讃線・琴平行</p> <p>◎香川県丸亀市行政視察 (午後2時00分ごろから2時間程度) 【調査項目】丸亀市川西地区の防災まちづくり活動について 【議事事務局】 電話：0877-24-8828</p>	丸亀市内
11/7 (木)	<p>8:21 丸亀駅 9:00 岡山駅 9:17 岡山駅 9:58 姫路駅 10:11 姫路駅 11:07 尾崎駅 11:28 篠山口駅 12:28 篠山口駅 JR 特急しおかぜ 6号・岡山行 JR 新幹線ひかり 464号 JR 神戸線新快速・救急行 JR 丹波路快速・篠山口行</p> <p>◎兵庫県丹波篠山市行政視察 (午後2時00分ごろから1時間30分程度) 【調査項目】公共交通政策について 【議事事務局】 電話：079-552-6855</p>	小野市内
11/8 (金)	<p>16:29 篠山口駅 16:46 谷川駅 16:54 谷川駅 17:22 西脇市駅 17:52 西脇市駅 18:12 粟生駅 18:25 粟生駅 18:29 小野駅 JR 丹波路快速・福知山行 JR 加古川線・西脇市行 JR 加古川線・加古川行 神鉄粟生線・新開地行</p> <p>◎兵庫県小野市行政視察 (午前10時00分ごろから2時間程度) 【調査項目】市役所新庁舎整備に向けた取り組みについて 【議事事務局】 電話：0794-63-1006</p> <p>13:15 小野駅 14:14 湊川駅 14:25 湊川公園駅 14:32 新神戸駅 15:33 新神戸駅 16:05 岡山駅 17:04 岡山駅 19:15 米子駅 19:20 米子駅 神鉄粟生線準急・新開地行 (徒歩) 神戸市営地下鉄西神・神戸駅 JR 新幹線さくら 563号 JR 特急やくも 21号</p>	

旅費計算表

令和元年11月6日～令和元年11月8日(2泊3日)

総務政策委員会行政視察

香川県丸亀市・兵庫県丹波篠山市・兵庫県小野市

月日	区間	鉄道路線名	区キロ数	間でのキロ数	運賃	グリーン	急行	料金		日当	宿泊		料
								別	金		甲	乙	
11/6 (水)	米子～岡山 ～丸亀	JR JR			7,850 1,010	岡山往復割			議員1,500円 随員1,100円	1,500 1,100	甲 14,800円 10,900円	乙 13,300円 9,800円	
11/7 (木)	丸亀～岡山 ～姫路 ～尼崎 ～篠山口 ～谷川 ～西脇市 粟生 小野	JR JR JR JR JR JR JR JR 神鉄			4,990		540		2,090	1,500 1,100			13,300 9,800
11/8 (金)	小野～湊川 公園～新 岡～山 ～米子	神鉄 市営 JR JR			670 240 2,640					1,500 1,100			
計	議員旅費 随行旅費			55,290 47,090	18,500 18,500		540 540	5,150 5,150		4,500 3,300			26,600 19,600

出席議員：門脇委員長、国頭副委員長、石橋委員、今城委員、岩崎委員、岡田委員、尾沢委員、中田委員、西川委員  
随行者：佐藤議事事務局主任

議員 55,290 × 9名 = 497,610  
随員 47,090 × 1名 = 47,090  
合計 544,700